

実施調査 生徒・教職員アンケート

調査対象 全校生徒および教職員

調査時期 第1回 2021年6月 … 試験運用期間含む導入1カ月程度

第2回 2021年9月（教職員11月）

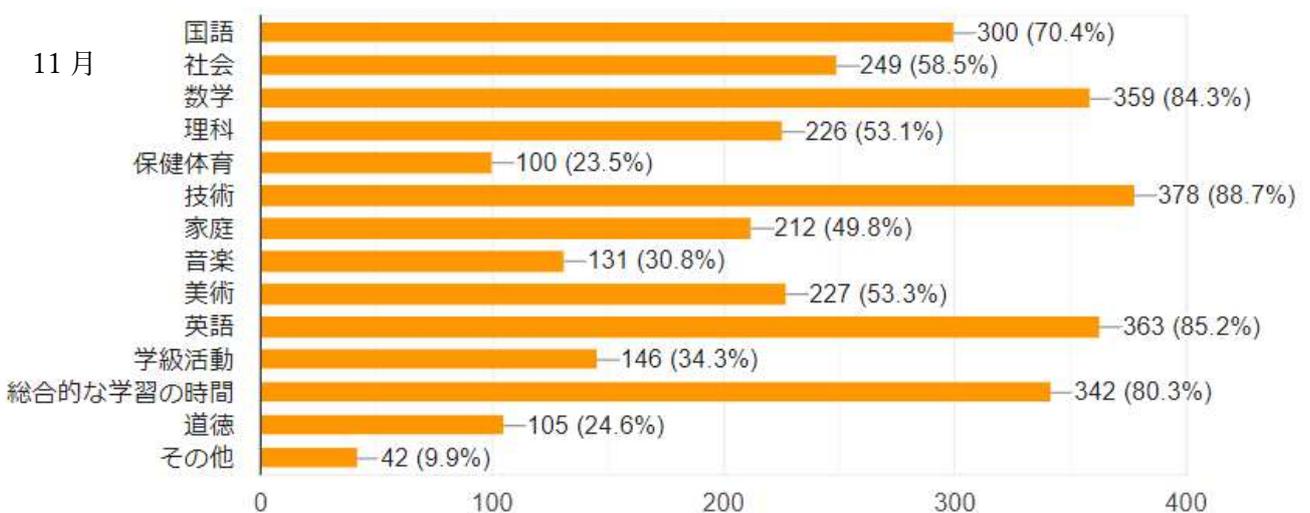
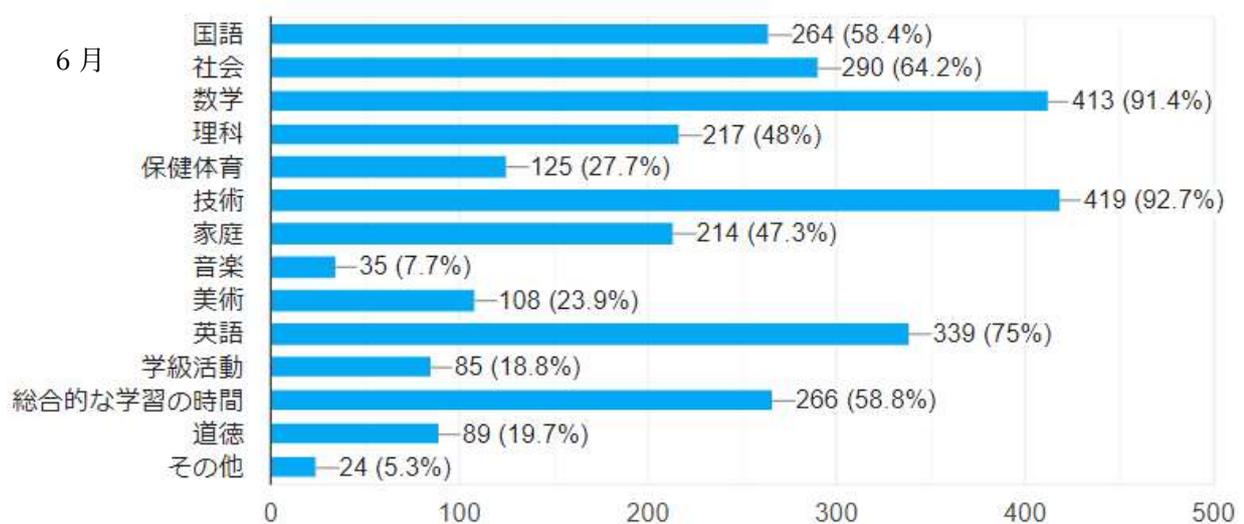
A ICT 端末活用状況について

①活用頻度に関して

	時期	ほぼ毎時間	半分くらい	月1時間 くらい	まだ実践 できていない
CBなどのICT機器を どの程度使っていますか。	6月	33.3	28.6	14.3	23.8
	11月	42.1	47.4	5.3	5.3

【教師アンケートより】

「ICT機器を利用して学習している」と生徒が実感している授業



【生徒アンケートより】

②学習場面別活用状況（比較）

A 一斉学習	B 個別学習	C 協
<p>挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となります。</p> <p>▶A1：教員による教材の提示</p>  <p>画像の拡大表示や書き込み、音声、動画などの活用</p>	<p>デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となります。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となります。</p> <p>▶B1：個に応じる学習</p>  <p>一人一人の習熟の程度等に応じた学習</p> <p>▶B2：調査活動</p>  <p>インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p>	<p>タブレットPCや電子黒板等を活用し、交流学習において子供同士による意見交換、思考力、判断力、表現力などを育成する。</p> <p>▶C1：発表や話し合い</p>  <p>グループや学級全体での発表・話し合い</p>
<p>▶B3：思考を深める学習</p>  <p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた学習</p>	<p>▶B4：表現・制作</p>  <p>マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p> <p>▶B5：家庭学習</p>  <p>情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p>	<p>▶C3：協働制作</p>  <p>グループでの分担、協働による作品の制作</p>

平成 26 年 学びのイノベーション事業報告書第 4 章「類型化された学習場面（例）」をもとに比較

		時期	多くある	まあまあある	あまりない	したことがない	わからない
A	スクリーンなどに先生が示した写真や画像を見ながら学習する	6月	52.4	28.6	9.5	9.5	
		11月	52.6	31.6	10.5	0.0	5.3
B	自分のレベルや自分の目標に合わせてドリル学習をする	6月	0	4.8	19	76.2	
		11月	0.0	15.8	26.3	52.6	5.3
B	インターネットを使って情報収集をする	6月	4.8	42.9	38.1	14.3	
		11月	15.8	36.8	42.1	0.0	5.3
B	授業のあと学習内容をさらに詳しく調べる	6月	4.8	14.3	38.1	42.9	
		11月	10.5	26.3	36.8	15.8	10.5
B	授業のふり返りをしたり、作品（課題やレポートを含む）を作成したりする	6月	14.3	38.1	19	28.6	
		11月	10.5	57.9	15.8	10.5	5.3
B	家庭で授業の学習内容を復習したり、課題を仕上げたりする	6月	0	0	28.6	71.4	
		11月	0.0	15.8	57.9	15.8	10.5
C	ジャムボードやスライドを作成してクラスやグループに発表する	6月	9.5	23.8	23.8	42.9	
		11月	0.0	42.1	47.4	5.3	5.3
C	他の生徒と意見を交換したり、まとめたりする	6月	14.3	28.6	23.8	33.3	
		11月	0.0	52.6	36.8	5.3	5.3
C	グループで役割を分担し同時編集して作品を完成させる	6月	0	19	14.3	66.7	
		11月	0.0	47.4	15.8	26.3	10.5
C	学校と離れたところにいる人と交流する	6月	0	0	14.3	85.7	
		11月	0.0	10.5	21.1	42.1	26.3
D	クラウドを利用して生徒と情報を共有する	6月					
		11月	15.8	31.6	31.6	15.8	5.3

【教職員アンケートより】

③今後、ICT 活用が期待できる分野に関して

		すでにやってる (+前回との比較)	やってみたい +どちらかといえばやってみたい
A1	スクリーンなどに先生が示した写真や画像を見ながら学習する	54.7% (+16.3)	24.9+16.0 【40.9%】
B1	自分のレベルや自分の目標に合わせてドリル学習をする	27.0% (+12.2)	31.7+28.9 【60.6%】
B2	インターネットを使って情報収集をする	47.2% (+11.7)	39.7+11.5 【51.2%】
B3	授業のあと学習内容をさらに詳しく調べる	9.2% (+2.8)	37.1+41.3 【78.4%】
B4	授業のふり返りをしたり、作品(課題やレポートを含む)を作成したりする	47.7% (+18.1)	20.9+19.2 【40.1%】
B5	家庭で授業の学習内容を復習したり、課題を仕上げたりする	18.1% (+13.2)	38.0+30.5 【68.5%】
C1	ジャムボードやスライドを作成してクラスやグループに発表する	45.1% (+6.0)	28.9+18.3 【47.2%】
C2	他の生徒と意見を交換したり、まとめたりする	40.8% (+8.9)	33.1+21.6 【54.7%】
C3	グループで役割を分担し同時編集して作品を完成させる	26.1% (+4.9)	48.6+19.2 【67.8%】
C4	学校と離れたところにいる人と交流する	3.8% (+2.1)	52.3+28.4 【80.7%】

【生徒アンケートより】

B ICT 端末を活用した学びについて

①有用性の実感について(学力向上につながると思うか)

	生徒		教職員	
	思う	どちらかといえば思う	思う	どちらかといえば思う
第1回	61.8%	27.9%	42.9%	57.1%
	89.7%		100%	
第2回	57.0%	33.6%	52.6%	47.4%
	90.6%		100%	

②生徒が活用するときどのような困りを持っているかについて

【%】

	生徒		教師目線	
	第1回	第2回	第1回	第2回
機器の操作方法(日本語入力の切り替え/キー入力等)がわからない	12.7	12.8	23.8	21.1
Google アプリ(ドキュメントやジャムボードやスライド等)の使い方がわからない	13.2	13.3	47.6	15.8
タイピングに時間がかかる	41.5	41.4	33.3	47.4
学習目標の達成より機器の操作に集中がいつってしまう	21.7	21.9	57.1	52.6
情報モラル(してはいけないこと)についてよく理解していない	4.5	4.4	23.8	52.6
自分のしたいことのためにどのアプリを使えばよいかわからない	15.0	15.0	28.6	15.8
チャットやジャムボードを自分勝手に使う生徒がいて迷惑だった	20.5	20.6	28.6	21.1
不適切な書き込みで嫌な思いをした	2.2	2.2	9.5	15.8
Wi-Fiに接続しにくいことがある	67.0	67.0	61.9	52.6
ほとんど困りはない	14.7	14.8	0.0	5.3

③ スキルアップについて (ICT 機器を使うためにできるようになりたいこと)

【%】

	生徒		教師	
	第1回	第2回	第1回	第2回
機器に問題があれば自分で解決できる	74.8	76.1	66.7	57.9
周りの人が困っていたら彼らをたすけることができる	55.6	56.8	42.9	68.4
Google アプリ (ドキュメントやジャムボードやスライド等) の使い方を覚える	53.1	48.6	71.4	63.2
タイピングが速くなる	84.2	82.2	23.8	26.3
Wi-Fi など通信回線等の知識・技能を身につける	55.1	60.3	47.6	31.6
情報モラル (してはいけないこと) についてよく理解する	42.2	42.3	33.3	42.1
自分の目標達成のために一番良い使い方を選択する	55.1	56.3	71.4	47.4
あまり使いたくないが周りについていくぐらいのことはできるようになりたい	10.3	7.3	0.0	5.3
できることなら使いたくない	2.0	2.6	0.0	0.0
上記にはない (その他)	0.6		0.0	

その他 サイトを作ってみたい。Google アプリの使い方や機能を詳しく覚え、取捨選択できる

既にできることはできている。強いて言うなら、分からない人に作業のやり方を教えてあげる時間がほしい。

④ 行動の変容について (第2回のアンケートより)

生徒

「附中×GIGA」の取組を通して、あなた自身の ICT 機器の使い方についての考え方や行動は、変わりましたか。	変わった	変わったと思う	あまり変わっていない	変わらない
	31.7	44.8	17.1	6.3

教職員

約半年の実践で自分の ICT スキルは向上したと思いますか	大いに向上した	ある程度向上した	余り向上していない	全く向上していない
	26.3	73.7	0.0	0.0
先生自身が、「ICT を正しく使うこと」についてどのくらい意識ができていますか。	かなり意識できている	まあまあ意識できている	あまり意識できていない	意識できていない
	26.3	68.4	5.3	0.0

⑤ ICT モラルの指導の可否について (第2回教職員のアンケートより)

	できる自信がある	ある程度自信がある	余り自信がない	自信がない
情報社会の責任や義務	15.8	84.2	0.0	0.0
個人の権利の尊重	10.5	89.5	0.0	0.0
著作権などの知的財産権	5.3	73.7	21.1	0.0
違法行為	5.3	73.7	21.1	0.0
情報の保護	5.3	68.4	26.3	0.0
契約の基本的な考え方	5.3	47.4	47.4	0.0
危険を予測し被害を予防すること	0.0	84.2	15.8	0.0
情報の信頼性や取り扱い	15.8	63.2	21.1	0.0
情報メディアとのかかわり方	15.8	78.9	5.3	0.0
情報セキュリティー対策	5.3	63.2	31.6	0.0
ネットワークの公共性	5.3	84.2	10.5	0.0

⑥ ICT を活用した授業における教職員の困りについて

- 共同編集がうまくできないときの対処方法（瞬時に判断）
- Wi-fi がつながらない時、予定していたことができなくなる怖さがある。
- 生徒に活用させる以上、教える私達を使いこなせることが大前提だと思うが追いつかない。
端末の操作になれていない点。
- OCB の使い方の指導がなかなか浸透しない。
- 自分自身が ICT について勉強不足なので、使いながら覚えていきたい。
- 生徒に提出させたものに対する評価とその時間の検出
- 感染防止対策を考えながらの活動なので、CB を活用した授業はしづらい。そして、知識もない。
- 実技の授業で使用する場面を増加させること
- 授業準備+ICT を取り入れた授業のための教材開発、実験などの時間がかかる。
- 想定しているように使えるか不安。
- 従来の方法より授業時数が増す恐れがある。
- 新しい活用法を学ぶ時間があまりない。
- 体育館での管理や撮影の際の固定の仕方など。
- OCBT に依存するつもりはないですが、授業のオンライン化や ICT との関連性の中で評価については必ず生じる課題だと考えます。実践と研究が必要かな・・・

C 今後の展望について

① 教科を超えて取り入れることができそうな取組について

- 学び合いや意見の集約の場面
ジャムボードを活用した思考ツール、グーグルフォームの活用、質問機能など
スライドを共有に入れて閲覧し合う。
- 努力を要する生徒への手立て
「ヒントを配信するが、使うかどうかは生徒に選択させる（任せる）」という考え方。自己決定の場
写真に撮ってヒントカードとして利用
- 問題の提示
動画、フリーソフト、ブラウザアプリを活用して、実験の代わりに活動や操作する活動にできる
- 振り返り
フォームの活用 CBT
- 座席を超えた交流
一斉編集など（スライドやスプレッドシート）

② ICT 機器を活用することで新しい活動を生み出したり、活動の幅を広げたり、効率よく作業できたりするであろうと予想できる場面について（第2回教職員アンケートより）

○オンラインミーティング（Meet や Zoom）を用いた学校外との交流

- ・学びを止めないためのオンライン授業

有事に備えシステムを構築しておくことによって円滑にシフトチェンジが可能となる。

定期的な訓練の実施が望ましい

- ・不登校生とつながる新しい手法

登校面談、家庭訪問につづく新たな手法として支援の幅を広げることができる

- ・他校との交流

学習内容を共にする方々との意見交流や学習成果交流会を企画することによりこれまで PTA や青垣祭などの場面に限定されていた発信の方法に幅ができた。無理に行事などに合わせなくても発表の場を作ることができるなど行事の精選や時間短縮などにつなげることができる。

- ・オンライン英会話やゲストティーチャーの招聘など本物に触れる機会

講師招聘に関しては、旅費や拘束時間の設定など多くの制約があった。また本物に触れる機会は修学旅行や講演会などの機会に限定されていた。オンラインミーティングでおこなう行事と実際に来校していただく行事、実際に現地に向かう行事というふうにとどのように開催するかを整理することで、頻度を増やすことができ、行事の精選につながると考える。

- ・オンラインによる集会

感染症対策として始めたオンライン集会は、開催方法の選択肢の一つとなっている。

○ これまで行ってきた活動に ICT 端末を取り入れること

- ・生徒や教師を対象としたアンケートや調査または全校集会での講話などの後の感想記入
速効性、負担軽減

- ・1分間スピーチを補完する資料提示の道具として活用

- ・部活動において（ディベート部）

部活で情報共有、共同制作ができるようになり、スムーズな活動につながっている。

体外試合も頻繁に行えている。

- ・生徒会活動

生徒会が積極的に ICT 端末を道具として利用している。

Classroom を核にして、アンケートには、Form 発表にはスライド など

○ その他

- ・自分（生徒）のスケジュール管理

- ・サイトを利用した連絡掲示板

- ・健康観察

○ 効果測定に基づく検証

活動のデジタルとアナログの仕分けが必要

目的達成に適した手法（デジタルとアナログ）として共通理解

③ 実践交流から得た教職員の所感について

- 本校の先生方の実践交流をたくさん聞くことができたので、より実践してみたいという気持ちになりました。今後も研鑽に励み、子どもたちにとって効果的な支援ができるように努力していきたいと思いました。
- 「即効性」の有用性はやはり授業においても感じる。また、紙媒体から離れることで、授業に必要なワークシートの管理が飛躍的にしやすくなったが、ネット回線が安定的に供給させることが前提となっているので、そのリスクも理解した上で活用しないといけないと感じている。
- 各教科の特性を生かした色々な使い方があることを発見できた
- 他教科の実践を聞くことで、自分の教科への可能性が広がった。
- 他教科の実践の中から、自分の教科で活かせるような実践を見つけることができた。
- 実際に生徒が使用した資料を保存して、評価に生かしたいと思った。
- 汎用性の高い事例が多く、教科のみならず、総合や学活など含め活用したいと思いました。
- 各教科の中で既存のものを利活用できるようになるといいなと思いました
- 他の教科の先生方の ICT の使い方がわかって良かった。
- CB の色々な使用方法を知ることができたので、理解して活用していきたい。
生徒と同じように教員間でも取り扱いに差が出てきている。教科部での研修を深めたい。
短時間で内容が濃くて勉強になりました。
- 知らなかった活用法を多く知ることができてよかったです。色々な使い方ができるし、教科によって使いやすい方法で活用されている。
- それぞれの活動への質問をする時間がなかったので少し残念でした。
- それぞれの活動をまとめる活動は良かったと思います。
- グループ研と発表の様式についても皆さんが慣れてきたのでスムーズでした。

④ 今後の学校研究に対する展望について

- 今後も実践交流会の場を設けてほしい。もう少し協議の時間をとってほしい。
⇒今年度、年3回を校内研究に位置づけている
- 現在の ICT 環境や設定等を担っている教員の仕事を今後どう引き継ぐのか。組織的な取組にするにはどうすればよいか。来年度に向けての作業等はどうのようなものがあるのか。
全教職員が把握して新年度を迎える必要がある。
- ICT の実践を通して、生徒の力につながるように授業を進めていきたい。
県外の ICT の実践が進んでいる学校の事例も参考にしたい。
- ICT に係る知識は、2～3 か月で過去のものになる可能性が高いことを鑑み、常にアンテナをたて生徒も教師も最新の知識や技能に触れる環境を構築する必要がある。
また、変化に対応するために情報活用能力（ICT に関する土台となる資質能力）を高める教育の在り方を模索する必要がある。
- 困りを解決しあう体制づくり（サポーターズチームの活用等）をする。